

●安全に関するご注意

本器を安全にご使用いただくために、「取扱説明書」をよくお読みになり、十分に理解されるまで作業を行わないでください。
取扱説明書以外での使用、改造及び分解による事故等の責任は一切おいかねますのでご了承ください。

使用上のご注意

- 充電の際には周囲の環境の安全を確認してください。
 - 燃えやすいものや火気近づけないでください。
 - 雨水のかかる場所や湿気の多い場所は避けてください。
 - 閉め切った場所は避け、風通しの良い場所で充電してください。
 - 充電器やバッテリーは平らで安定した場所で使用してください。
 - 充電器に物をのせたり、布等を被せて使用しないでください。
 - 密閉された場所（バスボート内、ストレージなど）で使用すると温度が上がりすぎ、故障の原因となります。
- ACコードや出力コードを扱う時はコードを引っ張り回さず手で握らないでください。
- 3〜10回の充電は必ず1〜2時間36時間程度で行ってください。
長時間の充電は、バッテリーを傷めるだけでなく危険ですのでしないでください。
(本器は自動停止機能付ですが、36時間以内で充電完了ランプが点灯しない場合には、バッテリーの寿命、過放電放置、不良もしくは操作手順の誤り恐れがあります。)
- 充電器をご使用にならないときは、ほこりや湿気のかからないように箱などに入れて保管してください。

完全放電・長期放置したバッテリーを充電する時のご注意

エレクトリックモーターが停止するまで使用した場合や、その後長期放置したバッテリーについて

完全放電や、放電後長期放置したバッテリーを充電する時、特に注意して見て頂きたいのは、バッテリーの残量電圧です。これは充電器本体に搭載されている「バッテリーチェッカー」で見ることができます。この時NGランプが点灯する又は、ランプが無点灯のバッテリーは、絶対に充電しないでください。重大な故障や事故の原因になります。

(過放電過放電(バッテリー)を充電した場合よくあるケース。1回の充電でも十分に蓄電能力が回復しない[バッテリーのハイドロメーターが緑色に使用できる普段より長い]ハイドロメーターが緑色にならない)事があります。この場合の対応として、充電完了ランプ(自動停止)の点灯の有無にかかわらず6〜12時間程度を目安として一度充電器の電源を切り、完全にバッテリー、充電器共、冷ました後再度充電してください。

*特に完全放電後、長期間(バッテリーを放置した場合(過放電過放電(バッテリー)は、蓄電能力が回復しない[サルフェーション現象]場合があります。なるべく早く、遅くとも24時間以内に充電を開始する事をお勧めします。

又、これらのバッテリーを充電した時の症状として、充電直後に普通よりも断続して大出力の電流が流れます。この時に充電器本体を熱などから保護する為に、頻りに繰り返す安全回路が作動する様に設計されています。その結果として充電時間が普段より長くなる(自動復帰温度ヒューズ)事や、機能を完全停止(電源ランプが点灯しない)する【内部ヒューズ※自動復帰しません】事があります。高この内部ヒューズが作動した場合は基礎整備の恐れがありますので、お客様自身で分解理解せずに販売店にご相談ください。

充電器は、充電しますとその構造上どうしても内部から熱を発します。熱(ヒート)による火災の可能性)に対しての安全設計は徹底されておりますが、充電の際はなるべく通気の良い場所(特に気温が上昇する夏期、やむをえず屋内で行う場合は)バッテリー液漏れの可能性を考慮場所を選んでください。)で行うようお願いいたします。それにより、充電時間の短縮だけでなく、安全性の向上にもつながります。

機能説明

電子制御式定電圧定電流充電方式	充電中にバッテリーの電圧が上昇し、過充電にならないように電子制御によってバッテリーの充電終止電圧を一定にし充電初期電流も制御、ポイズジャーバッテリー、シールドバッテリーに対応した充電方式です。
充電完了	ICタイマーを使用し、自動で充電OFFします。 (図1) 充電完了した場合には、充電完了、充電中、電源の3つのランプが点灯します。
バッテリーチェック	電源OFFの状態(バッテリー)に接続しバッテリーチェックボタンを押すとバッテリーの状態が一目わかります。(図2)
短絡保護(短絡不良)	バッテリーチェックボタンを押して、ランプが点灯しない場合やNGが点灯する場合はバッテリー不良のため充電しません。(クリップ接続不良等含む)
逆接保護	バッテリーへの接続を誤って逆につないだとき、逆接ランプの点灯とアラーム音でお知らせします。電源を入れた状態ではブレーカーが切れる場合があります。
温度保護	自動復帰型温度ヒューズにより、充電中に充電器内部の温度が、異常上昇したとき充電中ランプが消え、その後オート復帰し充電を開始します。
充電ブレーカー	本体の異常や過放電(バッテリー)への充電の際、大きな電流(過電流)が流れると自動的に本体前面のブレーカーが飛び出し、充電がストップされます。

仕 様

交流入力	AC100V 50/60Hz
直流出力	14.5V・16V
定格出力	8A (MAX10)
適合バッテリー電圧	12V (ポイズジャーバッテリー・シールドバッテリー)
適合バッテリー容量	M24MF, M27MF, M31MF, M30HMF (ポイズジャーバッテリー) (切替スイッチで選択) 一般/バッテリー (12V)
充電表示	充電中ランプ バッテリーチェックランプ
逆接・短絡・温度保護	出力カットします
入出力コードの長さ	各 1.5m
外形寸法・重量	207(W)×170(H)×140(D)mm ・約4.2kg

ご使用方法

- 充電するバッテリーの準備
バッテリーを適切な場所へ移動させて充電作業をするようにしてください。
- 充電の操作手順
 - ①電源スイッチをOFFに(必ずOFFにしてください。)
 - ②準備したバッテリーの ⊕ 端子に充電クリップの赤色を、 ⊖ 端子に充電クリップの黒色を間違わないように、しっかりと接続してください。
 - ③(逆接続した場合、本器からランプ点灯とアラーム音があります。)
 - ④本器のバッテリーチェックボタンを押してランプの表示を確認してください。(バッテリーの状態を確認します。)

バッテリーチェッカーの表示	バッテリーの状態
何も点灯しない	バッテリーの内部短絡のため充電器は作動しません。(短絡保護)バッテリーの交換をおすすめします。
NGのみが点灯	電源スイッチを入れて充電中ランプが点灯し、充電してもバッテリーの内部短絡のため、充電出来ない場合があります。
10V・11V・12V・12.5Vが点灯	通常充電します。チェッカーランプは、右側から消しますので、正常な電圧の(バッテリー)であってもNGランプは点灯します。

バッテリーチェッカーは、コンセントに電源プラグを差し込まなくても使用できます。

- ④(バッテリーの種類)に合わせて。(Voyager/一般/バッテリー)
Voyagerと同じタイプケーブルであっても、Voyager側で充電しないでください。種類によっては、事情により破損させる場合があります。
※Voyagerバッテリー以外のタイプケーブル(バッテリー)については、充電特性が異なる事が想定されIBASS CHARGER 10J)にて満充電できるかはわかりません。
バッテリーメーカー(発売元)へお問い合わせください。
⑤家庭用AC100Vコンセントに電源プラグを差し込みます。
⑥電源スイッチを「ON」にしてください。電源ランプと充電中ランプが点灯し充電が開始されます。
⑦充電完了ランプが点灯しましたら逆の順番で接続を外してください。

(本器は)バッテリーの電圧を利用して充電を制御しています。充電完了後は、すみやかに接続を外してください。

充電時間の目安(室温25℃・50%放電時)			
バッテリー容量	80Ah	105Ah	115Ah
充電時間	約12h	約15h	約17h

Q&A

こんな時は

症状	時期	対処
1 接続するとアラーム音がする。	充電クリップ接続時	逆接続です。クリップの接続を確認してください。
2 電源ランプが点灯しない。	電源スイッチを入れた時	家庭用100Vコンセントにしっかりと接続してください。
3 充電中ランプが点灯しない。	充電中	充電クリップが正しく接続されているか確認してください。 電源OFFの状態(バッテリー)でバッテリーチェックボタンを押して表示がNG及び不点灯の場合は、バッテリーの不良です。バッテリーの交換をおすすめします。 ブレーカーが切れていないか確認してください。
4 充電完了したが充電されていない。	充電終期	バッテリーの蓄電能力低下が原因とともわれます。バッテリーの症状を「バッテリーメーカー」にお問い合わせください。

- 本機の異常や過放電(バッテリー)への充電の際、大きな電流(過電流)が流れると自動的にブレーカーのノブが飛び出し、充電がストップされます。その際は、一度コンセントを抜き、充電クリップをバッテリーから取り外してください。
- 再度充電する前に飛び出したブレーカーのノブを押し込み、プラス、マイナスのクリップを間違えないように(バッテリー)へつなぎ、バッテリーチェックにて10V以上が点灯することを確認ください。(NGランプのみが点灯する際は、バッテリーの異常が原因と考えられます。)
- (バッテリー)チェックにて10V以上の点灯があり、再度充電を行い、尚且つブレーカーが作動する際は、電圧へご確認ください。
- 内部温度の上昇により温度保護回路(オート復帰)が動作する事があります。この場合、電源ランプが点灯しても、充電中ランプは消えます。
- 不良(バッテリー) (バッテリーチェッカー不点灯/NGランプのみ点灯)を充電されると(バスチャージャー)が破損する場合があります。又、これら原因により破損したチャージャー(充電対象外)となりますのでご注意ください。
- 本製品は、業務用および医療機器には使用できません。
- その他原因がわからないときは、弊社までお問い合わせください。

*掲載されている製品の仕様及びカラーは、改良の旨予告なく変更する場合があります。

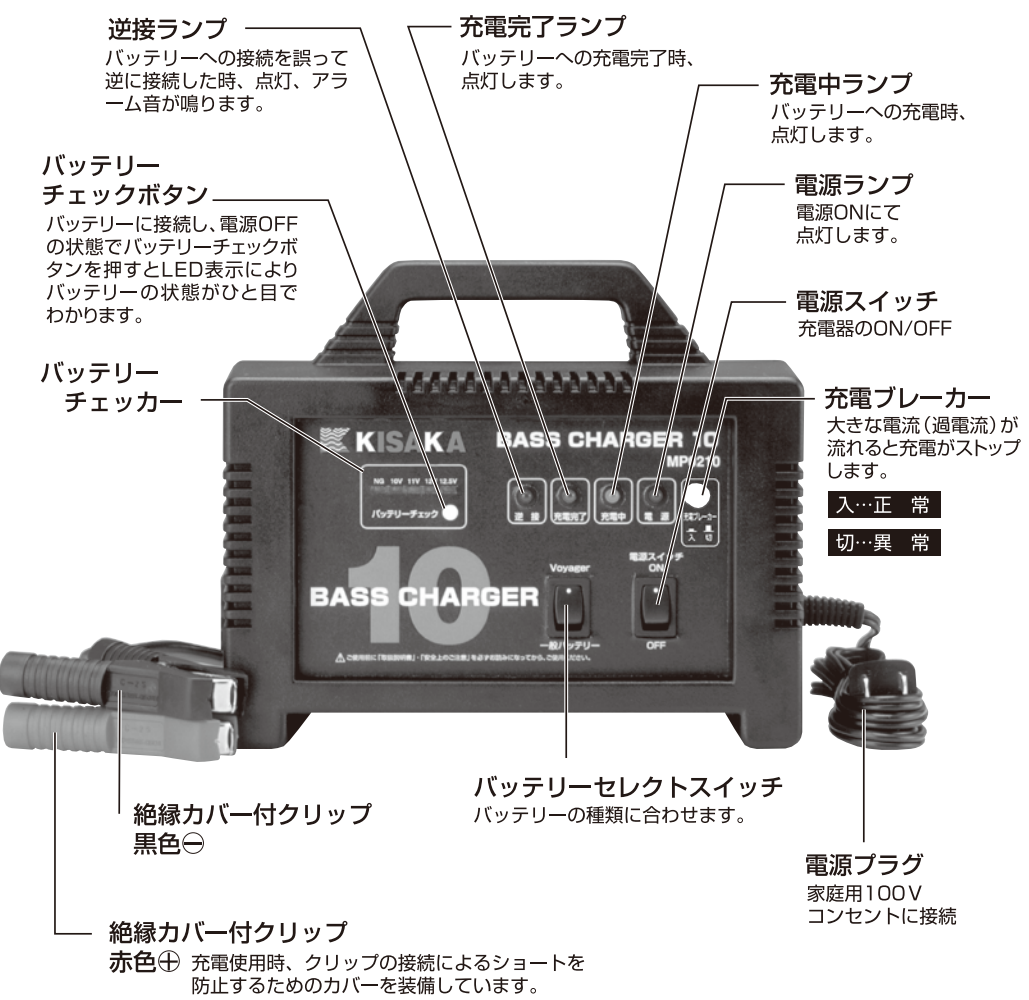


販売元
株式会社 キサカ
〒590-0984 大阪府堺市南区神田町4丁130
TEL.072-233-8888 (代) / FAX.072-233-8833

製造元
大自工業株式会社
〒582-0027 大阪府柏原市月形1000-126
TEL.072-976-0101 (代) / FAX.072-976-0105

BASS CHARGER 10 MPO210

各部の名称



- 左記下の充電時間の目安は、周囲温度、バッテリーの状態により変わります。
- 充電の途中でクリップを外し付け直したり、電源スイッチを入れ直すと充電時間が長くなり、充電完了ランプが点灯しない場合があります。
- バッテリーが寿命に近づいたりすると、充電完了しない場合があります。そのような場合は **連続36時間** 以上充電しないでください。

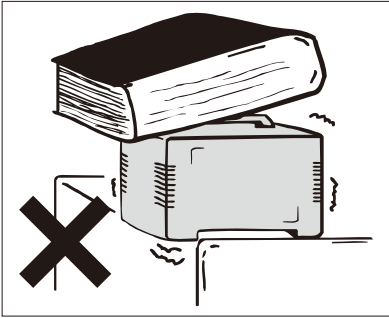
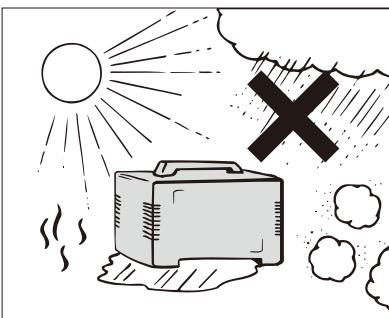
お手入れのしかたと保管方法

お手入れ

- 本器が汚れたときは乾いた布で拭いてください。汚れがひどいときは、水で布を濡らさず絞った後拭いてください。化学ぞうきん・ベンジン・アルコール・シンナー等は絶対に使用しないでください。本体ケースの変色・変形・損傷の原因となります。
- 充電クリップの金属部分はバッテリー液やガスで腐食します。ご使用後は、乾いた布に機械油やグリス等を塗り滑してください。

保管方法

- 高温・湿気・ほこり・振動の激しい場所には保管しないでください。
- 化学性ガス等の受けやすい場所には保管しないでください。
- 直射日光や発熱体の近辺等高温の場所や、夏期の閉め切った車内に放置したの保管しないでください。本体ケースの変色・変形、又は故障の原因となります。
- 車内のトランクルーム等振動の激しい場所での保管はしないでください。
- 本器に重い物を乗せたり、落下しやすいところに放置・保管しないでください。
- 子供・乳幼児の手の届かない場所に保管してください。



バッテリーの充電について

1.バッテリー使用量(残量)に関わらず、なるべく早く充電を行いましょう

バッテリーを使用後に充電せずに放置してしまうと、内部が劣化してしまい電気を蓄える容量が回復しなくなります。バッテリーの新旧や使用量(残量)に関わらず、なるべく早く遅くとも24時間以内に充電を開始して下さい。

2.保管は満充電の状態で行いましょう

バッテリーを保管する際にはその期間に関わらず必ず満充電の状態で行って下さい。また、バッテリーは未使用状態でそのままでの定期的な補充充電を行って下さい。(Voyager/バッテリーの場合2〜3ヶ月毎程度、一般/バッテリーの場合1ヶ月毎程度)

3.バッテリーの使用量はなるべく少なく抑えましょう

Voyager/バッテリーは「放電・充電」を繰り返して行えるタイプケーブルタイプのバッテリーですが、この「放電・充電」が行える回数はバッテリーの1回あたりの放電(使用)量に影響されます。特にバッテリーのハイドロメーターが赤色(残量50%以下)になるまで放電(使用)された場合には、この「放電・充電」が行える回数が少なくなります。また、同じくバッテリーのハイドロメーターが赤色(残量50%以下)になるまで放電(使用)された場合には、1回の充電ではバッテリーの満充電ができなくなります。この場合、充電完了ランプの点灯・赤点灯に関わらず24時間程度で一旦充電を終了して頂き、充電器とバッテリーが十分に冷めた後、再度充電を開始して下さい。通常、この工程を2回〜3回繰り返す事でバッテリーのハイドロメーターは緑色になり満充電の事ができます。※ハイドロメーターは内部で引っ掛かる事がありますので、軽くバッテリーを揺すってから確認して下さい。

バッテリー充電についての補足

はじめに一般的に船(バッテリー)の寿命は2〜3年と言われますが、この寿命を決定づける要因としてサルフェーションが、一番の原因にあげられます。「サルフェーション」とは、バッテリー放電(使用)時に発生する硫酸鉛が極板(電気を蓄える板)の表面に結晶化(硬化)する事を言います。もともと極板の表面はスポンジのように凸凹しており、この凸凹により表面積を増やして蓄電能力を上げているのですが、サルフェーション化した物質は電気を通さず、この凸凹を覆ってしまいう事で極板の表面積を減らさせ(バッテリー)の蓄電能力を下げてしまいます。また、このサルフェーション化した物質は通常の充電等で除去できません。つまり、バッテリーの寿命とはこのサルフェーションが蓄積する(バッテリー)の蓄電能力が下がり、放電(使用)可能時間の減少や充電不良(充電が完了しない等)が蓄積した状態とも言えます。

サルフェーションを防ぐポイント=充電のポイント

バッテリーを使用(充電&放電)する際上記のサルフェーションを完全に防ぐ事はできませんが、以下の事項に気をつけて頂く事で軽減する事が可能です。

1.バッテリー使用量(残量)に関わらず、なるべく早く充電を行いましょう

上記した硫酸鉛の極板表面での結晶化(=サルフェーション)ですが、バッテリー放電(使用)後24時間程度で始まると言われています。よって、(バッテリー)の放電(使用)後に速やかに充電を開始する事で軽減する事が可能です。逆にいくらか新しい(バッテリー)でも放電(使用)後に放置すればサルフェーションが進み蓄電能力が大きく減少、寿命も縮めてしまいます。※放電時に発生した硫酸鉛はやわらかい状態です。この時に速やかに充電を行うと硫酸鉛はプラス極では酸化鉛へ、マイナス極では鉛へそれぞれ還元されます(元に戻るが、結晶化(硬化)させると取れなくなります。

2.保管は満充電の状態で行いましょう

放電(使用)後の放置によりサルフェーションは進行します。つまり、バッテリーの蓄電容量が減った状態で保管する事はNGです。必ず、専用充電器で満充電にしてから保管を行ってください。また、バッテリーは使用してなくても自然放電しています。特に船外機やビルジポンプ等の電装品をつないだ状態ですと、待機電力等で消費されています。しばらくバッテリーを使用しない時は定期的な補充充電が効果的です。

3.バッテリーの使用量はなるべく少なく抑えましょう

近年、エレキ(電動モーター)・GPS・魚探を始め電装品の消費電力は製品の向上により低減してきましたが、それでも(バッテリー)の使用量は少なく抑える方が良いでしょう。通常、自動航行等に積まれる(バッテリー)はエンジン始動時に大きな電力を消費しますが、その後エンジン回転によるオルタネータ(ダイナモ)の働きで充電される為、常に満充電に近い状態をキープできますが、ライトの消し忘れや長期的自動車の不使用等で(バッテリー)あがり(深放電)させてしまうと充電しても元の性能(蓄電能力)を回復する事は難しくなります。これに対して、エレキ(電動モーター)やキャンピングカーのサブバッテリーとして使用されるディーゼルタイプ(バッテリー)は、放電後も専用充電器で充電する事で繰り返し使用する事が可能です。しかし、この繰り返し充電・放電サイクルの可能な回数は(バッテリー)放電(使用)量の影響を受けています。1回あたりの放電(使用)量が少なく充電・放電サイクルの可能な回数は増し、逆に1回あたりの放電(使用)量が多いと充電・放電サイクルの可能な回数が減ってしまいます。特に蓄電容量の50%を超える放電は、充電・放電サイクルの可能な回数を大きく減少させ、サルフェーションを早める他、専用充電器を使用しても1回では満充電できない(複数回の充電が必要)場合が発生します。

BASS CHARGER 10

取扱説明書 MPO210



この度は、「BASS CHARGER 10 (MPO210)」を

お買いいただきましたありがとうございます。

この取扱説明書は、「BASS CHARGER 10 (MPO210)」をご使用いただくためのガイドブックです。

弊社製「バッテリーチャージャー」を初めてお使いいただく方ももちろん、既に御使用にいられた経験をお持ちの方に、知識や経験を再確認する上でお役に立つものと考えております。

この「取扱説明書」を最後までよくお読みになり、内容を理解された上で正しくご使用くださいませようお願いします。

また、常にこの「取扱説明書」をお手元に置かれて作業されることをお勧め致します。

この「取扱説明書」は「保証書」を兼ねておりますので、大切に保管してください。



BASS CHARGER 10

保証書

BASS CHARGER 10

形式: MPO210

ご購入日: 年 月 日

保証期間: ご購入日より一年間

お客様

▶ ご住所

▶ ご氏名

▶ 販売店

▶ 販売店名

保証内容について

- 保証内容: 取扱説明書に従って正常な使用状態で、保証期間内に故障した場合には、無償修理いたします。
- 保証期間内でも、次の場合には有償修理となります。
 - a.保証書のご提示がない場合。
 - b.保証書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入がない場合。又は、字句を書き換えられた場合。
 - c.使用上の誤り、又は、不当な修理及び、修理や改造による故障や、損傷した場合。
 - d.お買い上げ後に発生した地震などによる故障や、損傷した場合。
 - e.火災、公衆及び地震、風水害その他天災地災など外部要因により故障や、損傷した場合。
 - f.消耗品及び、これに準ずる部品が消耗し取替を要する場合。
- 保証期間中に故障した場合は、製品と交換をご希望の上お買い上げの販売店にお申し出ください。
- この保証書は、本器本体においてのみ有効です。
- 保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。
- 必ず▶印の欄に記入してください。上記の保証内容をお受けする事は出来ません。



販売元
株式会社 キサカ
〒590-0984 大阪府堺市南区神田町4丁130
TEL.072-233-8888 (代) / FAX.072-233-8833